

本園の特色ある活動

越前市吉野幼稚園

1 園の実態

本園は旧8号線の西側に位置している。近年、越前市を東西に縦断する幹線道路が設置された影響で、道路周辺や園周辺に新しく家が建ち、核家族の家庭が増えてきている。一方で、愛宕山周辺は近辺に水田や丹南総合公園があり、自然環境に恵まれ、体を動かして安全に遊ぶ環境がある。

園児は3歳児、4・5歳児の2クラスで合計10名である。年齢別の保育を中心としているが、異年齢での保育や交流も実施している。

本年も新型コロナウイルス感染症の影響のため行事等で人数制限を設けるなどしたが、感染予防に努めながらほとんどの行事を行い、子ども達も意欲的に取り組むことができた。そして、保護者にも子ども達の活動や成長を見ていただくよい機会となった。

2 活動のねらいと取り組み

① 遊び込める環境と論理的思考を育む環境

＜にんじゃごっこ（3歳児）＞

・一人の園児がにんじゃに興味をもっていったことから、朝の遊びの際に保育者と忍者グッズをつくったりつくったもので遊んだりしているうちに、他の園児も興味をもってクラス全体の遊びに発展した。「今日は〇〇しよう」「明日は△△しよう」など、保育者と一緒に考えて必要なものをつくったり遊んだりして、毎日楽しみながらイメージを共有して遊び込んでいた。

＜きくまつり（4・5歳児）＞

・7月の七夕まつりの経験から、2学期に入ってから遊びが始まった。同じ経験をしていることから、共通のイメージで遊びを進めていた。そして、子ども達が試し工夫することを大事にして、素材や用具の量や遊びを継続するための環境づくりなどに配慮した。遊びの後の振り返りでは、うまくいったことだけでなくうまくいかなかったことなどの意見を出し合い、改善点を一緒に考えてまた次の日の遊びにつなげるラーニングスパイラルを行うことで、論理的思考が育まれるように心がけた。

＜よしのっこプレイランド（3・4・5歳児）＞

・今まで経験したことを生かし、異年齢で取り組んだ。子ども達と話し合い、「むしむしめいろ」と「北陸新幹線」の二つのグループに分かれて遊びをつくっていった。新幹線は菊人形で乗ったことで、共通のイメージはあるものの、本物に乗ったことがないのでどうしようか考える姿が見られた。そこで、保育者がイメージが膨らむような質問や言葉かけをしたり、時には提案をしたりすることで、チケットやトンネルなど必要な物を話し合いながらつくっていった。また、実際に遊んでみることで、改善点に気づき、試行錯誤しながら改善していた。そして、お客さんに説明をするなど、役割意識をもって取り組む姿が見られた。

② 食育と身近なところから始めるSDGs

＜おいしいふくい食べきり運動＞

・福井県の取組である「おいしいふくい食べきり運動」に参加した。給食を残さず食べきることを目標にし、自分が食べられる量を把握しながら残さず食べたり、フードロスについて学んだりした。「もったいないもんね」と自分で気をつける姿が見られるようになった。

<ダンボールコンポスト>

- ・昨年度ダンボールコンポストで作った堆肥を園の畑に混ぜ込んで夏野菜を育てた。4・5歳児は毎日野菜の水やりをして生長を見守っていた。小さな花をつけ、実がなる様子に、「花が咲いた!」「小さいね」「ちっちゃいピーマンができてる」など、日々驚きと不思議さの気持ちをもって観察していた。そして、収穫をすると数を数えて表にシールを貼っていった。収穫した野菜は家庭へ持ち帰り、保護者に調理してもらったり、一緒に調理したりして食べていた。幼稚園で育てた野菜が入っているからと誇らしげに家族に伝えたり、自分もおいしく食べたりしていたようだ。

<プランターで枝豆を育てよう>

- ・例年、一人一鉢ずつマリーゴールドなどの花を栽培しているが、今年度は枝豆を栽培することにした。プランターでは土が少なくてちゃんと育つか心配していたが、芽が出て、枝や茎が伸びて、家庭で少量だが実をつけて食べる事ができたようだ。保護者からも、「枝豆はよかったです」「けっこう甘かったですよ」と好評だった。

③ 安全管理・防災意識を育む

<避難訓練・交通安全教室>

- ・月1回の避難訓練では、地震・火災・水害・不審者・原子力対策引き渡し訓練、それらを複合したものを行っている。水害については、毎年のように各地で災害が発生しているため、垂直避難を行っている。また、保護者にも手紙を配布し、家族で水害があった時について考えていただく機会になっている。
- ・交通安全教室は園内で行っているが、横断歩道の渡り方や道路の歩き方だけでなく、駐車場での安全な行動についても学ぶようにしている。子どもが犠牲になる痛ましい事故を減らすためにも、様々な条件で交通安全教室を実施していきたい。

④ 職員間のつながりを大切にする

<地区の職員とつながる>

- ・例年、年2回「よしのっこ交流会」を実施しているが、コロナ禍の影響で今年も実施することができなかった。そこで、行事が少ない8月に吉野地区内の4園の5歳児担任が集まり情報交換を行った。コロナ禍の影響で研修が中止になったり、リモート開催が増えたりして、他園の職員と関わる機会がほとんどないので、よい機会になったようだ。
- ・本園の指導主事訪問に、毎年市内の幼稚園や公立保育園・こども園の職員も参観している。今回は同地区の家久保育園の園長が参加した。また、今年度新たに家久保育園の職員が、本園の子ども達が製作し、保護者会で保護者も参加して遊ぶ「よしのっこプレイランド」に参加した。そして、家久保育園での公開保育には本園の職員が参加した。今後も施設類型を問わず、同じ幼児教育施設の職員として交流や研修を行っていきたい。

<公立幼稚園の職員とつながる>

- ・コロナ禍の影響のため職員間で集まるのが難しかったため、公立幼稚園内の担任同士のかかわりが希薄になっていた。そこで、担任が集まり、情報交換や研修を行うことにした。本園の職員がファシリテーターとなり話し合いを進め、日々の悩みや情報交換、子どもとの関わり方のカンファレンスなどを活発に話し合った。

3 活動の成果

- ・日々の保育を振り返り、職員間で話し合いをしながら遊びを展開した。話し合いの時間を確保することは今後の課題だが、今後も職員間で園児一人一人の遊びや気持ちをしっかり見取りながら生活や遊びに主体的に関わっていけるようにしたい。